2016.11.28

【笹岡委員】　　修正版ありがとうございました。何点かお伺いしたいのですけれども、このいただいた紙の11ページの２番、一番最初の図表が、長期計画と個別計画の関係は一方的な矢印ではなく双方向のほうがよいということで、双方向に修正するというのは、この一番最初の「公共施設等総合管理計画の位置付け」という表が、長期計画から下で個別計画となっていたものが、双方向の矢印になるということで、これは結構すごく意味合いが変わってくるのではないかなと思ったのですけれども、そこのところの説明を少しいただきたいと思います。

それは、今後実行計画としてさまざま個別計画などが話し合っていかれると思いますけれども、そこの足並みをそろえるという意味なのか、この実行計画とか個別計画というのは割とさまざまな策定時期になってくると思いますけれども、それと長計をどのように考えていくのかというのをもう一度御説明いただきたいと思います。まずそこでお願いします。

【堀内総合政策部参事】　　これは前回も御説明したところでございますけれども、これまでもそうですし、これからもそうであろうというふうに思っておりますが、いわゆる長期計画と個別計画は策定時期も違いますし、その時々の社会情勢等によってそごが生じることはそれはあるわけです。これを時間も含めて整合を図っていくという意味で、従前はこの下向きの矢印だけだったのですが、そのことも考え合わせますと、双方向の矢印というほうがふさわしいかなということで、今回そのようなことを修正をかけようかなというふうに思っているところでございます。

【笹岡委員】　　それはわかりました。それは、この３ページ目の指摘にありますとおり、小中一貫等は六長で議論すべきであり、そういったところの足並みをそろえるべきでないかということから変わっていったのかなと思いますので、理解いたしました。

　そこでもう１点お伺いします。このいただいた紙の３ページ目のナンバー17、今回、小中一貫等の学校施設に関しては、今まで平成30年だったのが31年までに策定するように修正ということで、１年延びたことと思います。

そこで私も、長計とか本当に大きな問題になりますので、足並みをそろえて、そこだけ飛び出すというのはちょっと市民理解が得られないのではないかなと思いますので、１年延びたことはよかったと思います。

　それで、ここの市の考えのところを見ていただきたいのですけれども、「全市的な議論や合意形成が必要であり、それぞれの類型で検討が行われる中で、当然丁寧な議論がなされるものと考えている。」とありますが、私もその丁寧な議論がされるべきだと思いますけれども、そもそもこの特別委員会ができたのというのは、こういったものの丁寧な議論が少なかったからということで私たちは議会として特別委員会を設置したのではないかと思っていたのですけれども、これを書きますと、そういったことも心配なく、当然自然にされるものだというふうな考え方なのかなと思って、私としては、だったらではなぜこの特別委員会ができたのだというふうに思いましたので、ここの書かれ方はちょっと、私たち全員と言っていいのかわからないのですけれども、議員とこの行政の方々との考えの違いがあったのかなと思いますけれども、こちらに対して何か御意見があればお願いしたいと思います。

　もう１点は、同じ小中一貫に関してなのですけれども、10ページのナンバー81を見ていただきたいのですが、必ずされてきた小中一貫の議論と、この公共施設再編に対して切り離して考えるべきであるというパブリックコメントが出ております。それに対し、市の考え方は、「小中一貫は教育的観点から検討しているものであり、関連はするものの、まずはソフトのあり方、教育のあり方を検討して、それからそれを実現するためのハードのあり方を検討していくものと考えている。」とありますけれども、ここで、もうずっと問題になってきた教育のあり方を検討することは私もいいと思います。

しかしながら、それというのは、どれも選ぶことができるというのが大前提、どれも、というのは、小中一貫、施設分離型であろうと施設隣接型であろうと、それともばらばらであろうと、そういったことを選ぶことができるというものの前提があってこそのソフトのあり方の検討ではないかなと思います。まずソフトのあり方で、もし武蔵野市では小中一貫がいいだろうという結論になった場合に、ではそれを実現するためのハードのあり方を検討しようといいますと、ではそれが実現可能なのですかという話で、市民の方々からも毎回説明会を開くたびにここの感覚の違いが出てきている、疑問が噴出してきているということになっていると思いますけれども、そこに対してもう一度お考えを伺いたいと思います。

　またその次の文です。「ただし、実施の可能性の検討や緊急的な対応などは適時実施する必要がある。」この実施の可能性の検討というのは理解いたしますが、小中一貫の緊急的な対応というのは一体何なのでしょうか。もう少し御説明いただきたいと思います。

【名古屋総合政策部長】　　私のほうからは、これまでの、当然丁寧な議論がされるものと考えているという市の考え方について再度お尋ねがございましたので、それについてお答えしたいと思いますが、当然、今回公共施設等総合管理計画で総務委員会で行政報告をさせていただいて、いろいろな御意見を頂戴いたしまして、特別委員会を設置という議会の御判断をいただきまして、私どももいただいた御意見をもとに、コミュニティセンター、コミュニティ協議会を中心に市民の皆様のもとで、コミュニティセンターを会場にしてよく説明もさせていただいたと思っておりますし、また、いろいろなさまざまな御意見を頂戴いたしました。そのため、今回もパブリックコメントで前回とったときよりもやはりはるかに多くの御意見も頂戴したことは、その成果だというふうに考えております。

今後、公共施設等総合管理計画からさらに類型別の施設整備計画のほうに移行するに当たっても、当然のことながら市民の皆様への説明、当然ながら議会への丁寧な説明と、いろいろな御意見を頂戴する機会を設けまして、それは我々も市民の皆さんがよく理解をして、そして御納得いただいて賛同いただけるようなそれぞれの計画をつくってまいりたいというふうに考えております。

【竹内教育部長】　　私からは、そういう選択が可能か、あるいは実現可能性がある案がソフトの部分で検討されるのかということですが、当然、事務局がかかわっていますので、実現が不可能なことを検討することはない、その前提だということでございます。

　それから、緊急的な対応については、これは小中一貫というよりも学校施設整備上の課題というふうに捉えていただきたいと思います。

前の委員会でもちょっと答弁申し上げたとおり、例えば児童・生徒数の増で学校給食の施設上の対応をしなければいけないとか、それから大野田、桜野小などでもあったように、校舎の増築までいくかどうかはともかくとして、校舎上の、あるいは運用上の整備であるとか、それから学区についても、運用も含めて学区の切り方についても対応していかなくてはいけないということがございますので、そういう緊急的な対応が必要なものは対応していかなくてはいけないということでございます。

【笹岡委員】　　御答弁ありがとうございました。名古屋部長の言うとおりでございますけれども、このナンバー17の書かれ方ですと、先ほどおっしゃったように、最初はやはりパブコメも少なかったわけでありまして、こういったものというのは当然丁寧な議論がされるものというよりも、意識して本当に丁寧にもっていって、市民の方に周知をしてやっていかない限り、余り気づかれにくいといいますか、市民の方もお忙しいですから、そういうふうに考えております。

ですので、この特別委員会ができた議会としての問題意識、課題意識も含め、このような書かれ方は少し疑問が、当然丁寧な議論がなされてこないと思ったから特別委員会ができたと私は考えておりますので、この書かれ方に私は少しまだ疑問が残っております。これは意見としてお伝えしたいと思います。ただ、そのパブコメの量が今回18名ということで大幅にふえましたのは、やはり皆さん、市の職員の方が休日返上でさまざまなところを回られたということも大きくありますので、そこは本当に感謝したいと思います。

　先ほどの小中一貫の検討に関してのお答えなのですが、緊急的な対応については、給食とか学区とか、学校施設整備上の問題だとおっしゃいましたが、ここを見ていただきたいのですが、緊急的な対応というのは小中一貫の議論のところに書かれているのです。

なので、ここに書かれている緊急的な対応というのが小中一貫の議論の話ではないものでしたら、この文章をちょっと私は、緊急的な対応という言葉を抜かすべきなのではないかなと思っております。

　またこれも意見になってしまうのですけれども、市民説明会などに参加しておりましても、やはり皆さんが気にしているのは、実際に実現ができるのですか、実現したときにどうなるのですかということだったと思います。

ですので、お話を聞いていても、実現不可能なことはお話として材料にしていませんというような今のお答えだったかと思いますけれども、私は余りそうは思いませんでした。なぜならば、その議論の中に、施設一体型の小中一貫校が望ましいと考えている、施設隣接型だとやはり職員が余計に多忙になってしまう可能性もあるのでというような御説明で来たかと思われます。それに対して、実現不可能なことはお話ししていないというのは、どこのエリアのことをおっしゃっているのか、私はちょっとよくわからないのです。

それは市民の方々の疑問というのも余り変わらないのではないかなと思っておりますので、私は、この実現可能性が、全く実現できないことは検討していないというふうなお考えかと思いますけれども、それに関しては、本当にそうなのだろうかと。

もしそのおっしゃっていることが実現できる市内のエリアというのは、ではどこなのだろうなというふうに考えてしまいます。私も中高一貫の私立に行っておりまして、そこはもう幼稚園から短大まであるようなところでしたけれども、そういった大きな敷地があっての、さてどうするかという検討だったらわかりますが、この人口密度の高い本市においての、こういったソフトのあり方、その後にハードのあり方というのは疑問が残るので、ここは意見として申し述べておきたいと思いますが、何かあればお願いいたします。

　以上です。